

豊城炭礦

外務省

1-1858

0008

文書課長

豊城炭鑛

年月日	名	發宛番號	大	意
三二二一五	在上海領事公	三六六	平林理學士踏查実況	
三二二二	在漢口領事機	一七	炭鑛概況	
六一五	大倉茂身公		鑛務監督署許可証送附	
四一六	在漢口領事機	二	劃界為本邦技師入頼	
三三	同上	六	同上踏查狀況	
五五	大倉組公	二九八	既得権擁護方請願	
三三	在支公使機	八	同上之訓令	
一八	大倉組公	三九	試採権取消風説ニ関シ保護方請願	
四五二四	在支公使機	八六	同上訓令	

外務省

石炭採掘の調査報告

公債三六六號

豐城炭山の調査報告

江西省豐城炭山の采況に關し本月一日附より平林理學士より當館に達し

りし書面を依りて豐城の石炭及鉄を以て

有望なる評判ありと實地を採掘せる鉄鑛

の更なる見当を石炭の現今三ヶ所を開

掘るに其方法極まり松者尤り以て浸る

るに充分の採掘を檢査するに得るも炭を

採るに其方法極まり炭質は殊悪強して粉

塵人、炭屑用として使用せしむるが故に低

廉なると採掘の便に依り多量に利益を

得るよし高木採掘の方法を改良し利益を

増加せしむるに要するに格別有益なる炭

山の上をカラズ三ヶ所、採炭地は次々とし

坑唐里 豐城より西北二里余に田

野、地下四十尺乃至六十尺、厚さ四尺

位、炭層あり

下澤里 豐城より西北三里余に田野

、地下四十尺乃至六十尺、厚さ四尺、

更なる下り二十尺、厚さ七尺、下層あり

寒家山 豐城より西三里半、田野

、地下八十尺、厚さ七尺、層あり

高木地附近に人氣平穩にしては、妨

害ナリ調査を意外に容易に趣ナリ

中 次官

在上海日本總領事館

右及少報告外敬具

明治三十二年十一月十五日

在上海

總領事代理小田切萬壽之助



外務大臣寺島武久閣下

在上海日本總領事館

1-1858



大正三年二月十二日接受

返

機密第一七號

大正三年二月二日

在漢口

總領事代理高橋新造

收竹外務大臣宛

外務省

江原省餘于英領借款、自之件

右件之返し立九江、本署宛に、初我寫、用了申
越之、付以重固、古尔之、改申、返、致、各

三書 餘于英領、新

1-1858

0012

漢公第一〇號

大正元年 八月廿四日

在九江

外務書記生 八木元八

在漢口

總領事 松村貞雄 殿

餘干及豐城石炭状況

江西省、炭礦、富、文、狸振、自家用、供、居、到、處、之、發、見、得、目、下、積、大、規、模、採、掘、之、事、進、行、中、餘、干、及、豐、城、兩、地、亦、(中略)

豐城縣、南昌、上流、得、百、千、情、見、之、一、條、到

外務

ル、炭、石、炭、之、地、才、人、之、勝、手、狸、振、之、採、炭、之、民、亦、南、昌、下、之、炭、部、目、下、久、定、地、域、五、十、情、見、之、事、進、行、中、該、地、炭、之、古、來、採、掘、之、層、之、其、炭、質、餘、干、之、比、一、層、應、之、到、底、多、大、取、得、之、見、込、目、下、如、南、昌、之、餘、干、炭、之、不、足、之、補、之、事、進、行、中、南、昌、之、炭、之、相、協、之、餘、干、炭、之、比、之、精、練、ナリ、大、及、報、告、之、事、進、行、中



大正三年六月十五日

大倉農身

外務省政務局長殿

拝啓 各々 貴省の形に取致感謝の意を陳べて、以て未申上置き、
貴省の貴品は、古の悦びに、在りて、村に送られ、申上置き、
此下、乞ふに、貴省の形に、

別紙(書状)

第四区銀務監督署許可証第一号

原出願人 菅 尚華

該高代表、出願の據り、收済の銀務、資有に、豊城、餘子、樂
平三郷、於ん、於ん、於ん、於ん、於ん、於ん、於ん、於ん、
簿等、依り、潤走、スル、二、豊城、餘子、樂平、三郷、
計五区、餘子、樂平、餘子、樂平、餘子、樂平、餘子、樂平、
經テ、登録、シ、了、本署、之、明示、シ、後、之、正、確、登録、シ、了、

外務省

夕、後、又、該高、の、坑塘、運、集、神、山、下、澤、三、個、所、計、五、区、
ノ、増、加、積、累、シ、又、續、テ、餘子、樂平、餘子、樂平、餘子、樂平、
樂平、餘子、樂平、餘子、樂平、餘子、樂平、餘子、樂平、餘子、
本署、の、自、ら、安、申、シ、候、一、面、委、任、シ、候、一、面、委、任、シ、候、
査、也、レ、ト、一、面、委、任、シ、候、一、面、委、任、シ、候、一、面、委、任、シ、候、
訓、ヲ、依、テ、農、商、部、再、次、ノ、許可、ヲ、經、テ、存、シ、候、
此、ニ、許可、ス、

中華民国 三年六月十五日

署長 周大烈

監印 主事 方永模
校合 徐 維 周

外務省 印

第5期

秘受0386號

館事領總本日口漢在

機密第 號

大正四年一月六日

在漢口

總領事 瀨川 淺之進

外務大臣 男爵 加藤 高明 殿

大正三年十一月廿七日附
送付 密字五九 號 在九江ハ本館に生来信寫

件名

豐城炭礦刺果ノ為メ本邦技師ノ頼件

大正四年一月拾六日秘受

信字五九

印

1-1858

0015

機密第五九號

大正三年十二月二十七日

在九江

外務書記生八木元八

在漢口

總領事瀨川茂之進殿

豊城炭礦劃界ノ為メ本邦技師

入贛ノ件

大倉組上海支店長及礦山技師一行數名ハ順濟公司名義ヲ以テ株堀權ヲ得居ル豊城炭礦境界取極メノ為メ礦務監督署公文携帶昨二十六日九江段内地ニ赴キタリ

在漢口日本帝國總領事館

時ニ豊城方面ニ出張サスル筈ナリレカ同地方民及對ノ氣勢激シク危候ナリトテ延期方丈那官憲ヨリ請求アリ見合セ居リタルモノナルカ今般愈々詳細ノ踏査ヲナシ境界ヲ取極ハル事ニナリタルモノナリ

豊城羊公山炭礦ニ関シテハ地方部落ノ間ニ爭議絶ヘズ前年来屢々訴訟ヲ起シテ要領ヲ得ズ互ニ拘執シ居リレ處近來ハ之レ如クフルニ南昌ノ有志家同地方ニ赴キテ種々計畫シ順濟公司ヲ排斥セントレ居ルニ付今般右一行ノ入贛ニ付テハ又例ノ通り及對運動ヲ再開スルナラント期待スルモ余リ憂フ可キ事態ヲ醸スルハ至ル間敷見込ナリ
右及報告候也

大正四年一月十日

大正四年一月十日

管政第

駐在漢口領事館

機密第六號

大正四年一月十二日

在漢口

總領事 瀨川 淺之進

號 0510 號

外務大臣男爵加藤高明 殿

在漢口日本總領事館

大正四年一月五日附 在九江八木書記生來 信寫
送付送付先支那公使

件名

豐城炭礦踏査状況報告一件

送付

1-1858

機密第三號

大正四年一月五日

在九江

外務書記生 八木元八

在漢口

總領事 瀨川清之進 展

曲豊城炭礦踏査状況報告、件、

曲豊城炭礦踏査、為メ先般技師一行ト共ニ

同地ニ赴キタル大倉組上海支店長ハ去ル三日

九江歸リ着同地踏査、状況ニ関シ左ノ談話ヲ致シ

云々

曲豊城地方踏査ニ付テハ先般同縣知事ヨリ

在漢口日本總領事館

地方民反抗、為メ危険アル趣ニテ近期方要求ア

リ又今回鑛山地方ニ赴リ途上豊城縣知事

代理タル敬言察署署長ハ不慮、變シ氣支ヒ

知事、出張先ヨリ歸縣スルヲ待タン事ヲ請ヒタ

ル位ニシテ多ク地方民、反抗ヲ受ク可キ覺悟

ニテ知事、衙門沁遣、護兵ヲ伴ヒ鑛區地

方ニ入りタル處實際、狀況ハ意外ニテ何等反

抗、模様ナキ、ミナラス到ル處大ニ款待カレ地

方民ヨリ踏査上禮々、便宜ヲ與ヘラレタリ。

右地方民、好感ヲ表セル理由ハ由来同地方ハ

旧キ昔ヨリ土法ヲ以テ採掘ヲ行ハシ居ル

モ坑口入水、為メ採掘ニ從事シ得ルハ冬期三

四ヶ月ヲ限ラシ翌年ハ又新タニ坑口ヲ開スガ

ル可カラズ故、採掘カル、石炭ハ上層不良、部
 分ノミテ下層、良炭層ハ抽水、設備ナキ為
 メキヲ着クルヲ得ズ、偶々良炭層ヲ穿リ當テ
 奇利ヲ博スルモノトモ近年ハ皆失敗相繼キ
 到底大資本ヲ投シ洋法ニヨリ採掘スル外良
 策ナキヲ自覺シ来リタル為メ外國人ノ踏査ヲ
 歡迎シ地方民等一ツテ自分等ノ穿ケタル坑内
 ニ案内シ有ニル便宜ヲ與ヘヌル次第ナリト云フ。
 地方知事ノガ人民ノ反抗ヲ云々シタルハ先般鄂
 同等一泓同地方ニ赴キ地方民ヲ集メテ礦山ノ
 利權ヲ外國人ニ奪ハル、恐ナルヲ告ゲ種々慷慨
 ノ演説ヲナセルヲ以テ不慮ノ變ヲ恐レ右ノ如キ
 要求ヲナセルヲラシモ實際地方民ハ鄂同等一泓
 無資力ナルヲ熟知シ居リ其煽動ヲ乘ラズ却
 テ本邦人ヲ歡迎シタル次第ナリト云フ。
 右河野談話ノ主要及以報告ニ高河野等
 入山中上海出張中ト、大倉組門野ノ重役ヨリ
 一行保護方巡按使ニ電報アリ度旨申述シ
 来リシヨリ小倉ハ右電報ヲ登シ置キ
 右及報告ニ也

在漢口日本總領事館

五月六日

續重第二九號

外務省政務局長

小池 張造殿

大倉組

大倉發身

貴下

謹啓時下時局問題之為ノ御繁務之御
事ト奉恐察候國家多事之際閣下ノ御健康
ヲ不管奉祈上候
却説弊社ト合辦ニ經營ノ上海順濟公司既得
ノ豐城鑛正ニ関シ別紙寫シノ通り報告有之候存
寫志葉御送附申上候目下重大問題、為ノ御寸
際モアセセカレ折柄恐縮至極ニ存候得共何分ノ
御盡力伏而奉願上候要件而已敬具

大正四年五月九日

株式會社 大倉組

東京市橋區銀座二丁目七番地

第一

大正四年四月十番付

門野重九郎宛

上海順濟公司

株式會社 大倉組

東京市橋區銀座二丁目七番地

拝啓本日確聞ニ處ニ據ルバ本公司既得豐鑛ノ許可
ニ對シ江西有力紳董ハ之ヲ不合許可ナリトナシ農商部
ヲ相手取り平政院ニ向テ訴願ヲ提起セリトノ事ニ御座候
勿論當方ニ於テハ夫レニ對スル適當ノ施措ヲ怠ラズ進
行可致候モ右不取敢御報告申上置度如以ニ御
座候
右ニ就キ最モ緊要ナル北京公使署ヨリ農商部及外交
部ニ對ス書面ノ發送ニ有之辱々御願モ申出且ツ四
六日出御書面ニ依リ天津支店ヨリ御通信ニテ公使署

大正四年五月九日

1-1858

0020

株式會社大倉組

東京市橋區二丁目七番地

2.

ニ於テモ萬事所業知リテ候モ支那人側ニテハ尚ホ未
夕一字ノ通知サハ無キ旨言明致居候以義ニ付テハ萬
々御遺漏有之間敷トハ存候得共尚為念以
上、御配意願上度
右要件而已勿々敬具

大正
年
月
日

1-1858

0021

文書課長

大正四年五月拾三日接獲

36

津

林正 四年五月七日 日起草

同 年五月十三日 附

第一課

主任

別紙

改 機密送第 八〇 號

主管 政務局長

機密

第 一 門

東京 日置公使 加藤大臣

蕪城礦山ニ関スル件

外務省

大倉組合辦ニ經テ上海燭燭
公司ノ標握權ヲ有スル蕪城礦山ニ
江西省有カ、紳董ニ之ヲ許可スルカ
ラモ、農商部ニ相手取テ、平政院ニ
向テ訴願ヲ提起スルニ、^{四月十五日付}接
シ、大倉組ヨリ申出タル事、以テ
今置テ成ル事、此
中申付也

別紙添付 教書等ノ添付トシ

大正四年五月十九日接覽

鑛重洋三〇九號 大正四年五月十八日 奉命組

外務省

政務局長少池田造殿

門野重九郎

拝以愈前情詳奉准照候然追改陳情仕竟 江西者ニ於テ
支那例ト合辦ナル在上海順濟公司ニ於テ昨年試振
許可相受云

豊城

拾鑛區

樂平

貳鑛區

餘干

貳鑛區(批准)ニシテ正或許可至ラズ

ニ對シ餘干ハ既ニ批准ヲ取消シ而亦此即北京ヨリノ函報
ニ依リハ豊城、樂平等ノ許可ヲ取消スヤノ模様ニ有テ
支那法律ニ依リ許可ヲ得タルモノニシテ突然取消スルハ

外務省

ニハハ魚之ト存立得共何年御手許中ノ北京公使館ノ函
通知被下順濟公司ノ日支合弁ノ事及餘干ノ取消及
其他ノ魚法ノ所屬之權支那政府ノ所屬者被下至所
多信ノ折柄恐億千萬ノ利益害得共何分恩取奉
取云

右法既述也斯ニ法性宜知也

十七日

子署 順濟公司 謹啓

政
第八六

大正四年五月廿四日

加藤外務大臣

支那

日置公使

順濟公司關係鑛山之要旨

本件之関シ五月十三日附政務會議第八〇号ヲ以テ申述ス
治牙有之云處上海順濟公司ニ於テ昨年申成振ノ許可ヲ
受ケル豐城十鉱已ニ業中ニ鑛區餘干ニ鑛區ニ批准シ
テ巨款ヲシテ之ニ對シ餘干ニ既ニ批准シ治牙ニ豐城
平等ニ許可シテ治牙ノ風況見テハ順濟公司力日支令
辨ナルト云餘干鑛山ノ權利ハ治牙其他既得權ニ於テ
及ホスノ處置云々之ヲ支那政府ニ報告シテ其旨更ニ
大會ニ申出有之云旨右大會ノ上貴官ノ裁量
ヲ以テ可然工部省ノ注意ヲ喚起セシムル標的ニ以テ
申述ス

支那順濟鑛務公司案